

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

# 18世紀初期イングランド南部農村地域の店舗経営と ロンドンの役割（下） スティーブン・ハッチ家 のロンドン仕入れ

著者	道重 一郎
著者別名	Ichiro Michishige
雑誌名	経済論集
巻	46
号	1
ページ	71-96
発行年	2020-08
URL	<a href="http://doi.org/10.34428/00012006">http://doi.org/10.34428/00012006</a>

# 18世紀初期イングランド南部農村地域の店舗経営とロンドンの役割(下) —スティーブン・ハッチ家のロンドン仕入れ—

道 重 一 郎

はじめに

- 1 ハッチ文書とその性格
- 2 日常的な支払と購入商品
  - (1) 食料品
  - (2) 雑貨品・繊維品・服飾品
  - (3) 資材・サービス
- 3 ロンドンでの仕入れ活動
- 4 ロンドンでの繊維・服飾品関係仕入
  - (1) 小間物・服飾材料 [以上、前号]
  - (2) 布地 [以下、本号]
  - (3) 衣料品；ホーズ、胴着、コルセット、帽子
- 5 繊維・服飾関係以外のロンドンでの仕入商品
  - (1) 釘など建築用の金具
  - (2) 金物、刃物
  - (3) 陶器
  - (4) 雑貨
  - (5) 食料品、医薬品

おわりに

参考文献

## (2) 布地

さて、ハッチは小間物類と並んで多くの布地を購入しているので、続いて布地の内容を検討していくことにする。

### 1) フランネル

小間物類を購入したエドワード・アーサーの店でもモスリン、絹、ロシア布russia cloth、ドーラ

スdowlace (dowlas) などを探すような指示がある。モスリンは薄手の綿製品で装飾の素材に用いられていたと思われ、ロシア布は亜麻などの麻素材から作られる布地で、ドーラスも荒い麻布であり、ディアパーなどと同様のテーブルクロスなどの用途に用いられていたと思われる。絹も含めてアーサーの店での購入を考えると、衣料用に用いられていたというよりも家庭用の様々な用途、あるいは衣服の装飾用の素材として購入された可能性が高い。

一方、スティーブン・ハッチが布地購入先の冒頭にあげているのは、後述のホーズと同じロンドン橋際で白鳥の標章を掲げたジョン・スミスの店である。この店での購入には「フランネル他」という項目が立てられている。しかしこの項目にはフランネルばかりではなくコルチェスター・ベイ織、リンジー織lincey (linsey)、スウェード、梳毛毛織物、ローラー織Rowler (実態不明) などが

第4-4表 ジョン・スミスJohn Smithの店舗での購入品目

購入商品	内容	色などの指示	購入量	価格	備考
布地					
flanel (flannel)	梳毛毛織物	3/4yd幅、1yd幅	1/2yd	11d or 11.5/yd	1yd幅は見よ。
bays	梳毛毛織物	コルチェスター織、 白		11d ~11.5d/yd 11.5d/yd	if good if good
lincey	麻毛の交織	白、縞、黒		17 or 17.5d	縞=if good、黒=見よ。
swaders (suede?)	スウェード				見よ
coloured rowler	内容不明	紳士用			麻織物か？見よ。
布地以外					
worsted cap	縁無し帽	色付き、白	1/2doz		白=見よ。
shrouds	経帷子	男性用(3)、婦人用(1)	計4	5s6d, 5s	
		少女用	計5	2s4d~15d	
		少年用	計2	18d~15d	
靴下					
hose	靴下 子供用	白 first	1doz	2s6d	
		水玉	6pr	4d	
		青、大きい青	3pr	5d、8d	
hose	同 婦人用	明るい青	4pr	10d	
		藍、青	各3pr	12d、14d	
		緑	2pr	10d	
hose men	同 紳士用	small	3 or 4	12d	
worsted hose	靴下ウース テッド 婦人用	大きい青	3pr	20d	
		水玉		22d & 2s2d	
		黒			見よ。
worsted hose	同少年用	中、大	}		見よ。
worsted hose	同紳士用	明るい色		3 or 6 pr	2s2d
			3 or 4pr	2s10d	

(注) なお購入商品の表記は原則として原史料のものであり、第4-6表までは同様とする。また備考は指示内容で、「見よ」「探せ」「良ければ if good」などであり、以下の表でも同様とする。

略記号；ydはヤード、dozはダース、prは組pair。

出典；East Sussex Record Office FRE530より作成。

含まれる（第4-4表）。スウェードを布地に入れることはやや抵抗があるが、ここでは布の一種として取り扱っておく。フランネルは柔らかく軽い梳毛毛織物製品であるが、3/4ヤード幅で1ヤードあたり11dもしくは11.5dの価格で購入するよう指示されており、また粗い麻と羊毛の交織である白のリンジー織も価格は17dか17.5dである。このほかにも「いいものがあれば」、「とてもいいものなら」といった限定付きで、フランネル、コルチェスター・ベイ織、また縞柄のリンジー織を購入するように指示されている。残念ながら購入量が記載されていないためその目的ははっきりしない。

また、フランネルの項目には縁無し帽子などとともに経帷子Shroudsが成人男性、女性、少年、少女用が別々に購入されている。これを衣料にするか布地にするか難しいところだが、遺体を覆う袋と考えたい（指 [2019]、p. 153）。同じ男性用でも値段は5s 6dと5sがあり、子供用でも少女用の2s 4dもしくは6dと18d、15dなどの差がある。こうした種類の布地も大きさや品質に応じて、ある程度標準化されて販売されていたものと思われる。

## 2) リネン シャロン

リネン以下の項目は、大火記念塔近くで「船印」の標章を掲げるウィリアム・ブルロックの店での購入が指示されている（第4-5表）。この店での購入指示は、上述のエドワード・アーサーに次いで多く3ページに渡っている。第4-5表で示したように、購入や購入検討が指示された織物は麻織物を中心に極めて多様で、最初のページには「リネン布その他」という表題のもと、ガリックス・オランダ織Garlix holland、ドーラス織、カードル・リネンcurdled linen（堅い麻織物）など、様々な種類の麻織物を詳細な指示のもとで購入あるいは検討が指示されている。またチェック柄綿布、リンジー織など綿織物や麻と毛との交織織物など多彩な織物も購入が指示されている。次頁には「リネン布その他」という表題と「ハンカチで、赤や白のチェック柄また青と白の捺染のものを除く。但し大変いいものなら良い」との指示に続いて、ノルマンディー・オランダ織Normandy holland、バッグ・オランダ織Bagg hollandを「もし良ければ」購入するように指示がある。また綿織物の青く染めた捺染キャリコを探すようにという指示があり、その他様々な種類と特徴を持った織物が購入すべきものとしてあげられている。

一般的には、これらの繊維製品はおそらく25ヤード程度の長さを持つ布を1梱（pack）として梱包したものであろうと考えられる。18世紀初めにガリックス・オランダ織の価格は1エルあたり16d程度とされているので、1梱を20エル（25ヤード）とすれば、第4-5表にあるような価格25s 6dは、エルあたりで15.3dとなるのでこの想定はそれほど的外れではない。こうしたことを前提として布地の単価を考えると、ドーラス織は比較的安い粗い麻織物であるが、1エル10dとされており、単位の明確ではない上質のドーラス織で上質の滑らかなものは34s（1エルで20d）、「洗浄済み」

第4-5表 ブルボックスBullockの店舗での購入品目

購入商品	内容*	色、質の指示内容	購入量	価格	備考	参考価格**
Garlix holland	麻織物	幅7/8broad	2pc, 1pc	18s, 25s or 25s6d	if good	10.8~15.3d/ell
dowlace (dowlas)	粗製の麻織物 (ドーラス織)	上質で滑らか	1	34s		20.4d/ell
		洗浄済み、広幅		29 or 30s	見よ	17.4~18d/ell
		緻密で滑らか				
		粗製		10d or 11d/ell	見よ	
russia cloth	麻織物	粗製と上質				
curdled linen	麻織物	白の自家製	1pc	9d or 9.5d	大きすぎない。見よ。	
		茶色のもの		8.5d or 9d		
scotch cloth	麻織物	縞柄			if very good	
lawn	麻 or 綿織物				見よ	
cotton check	綿の縞	yd幅			見よ	
drill	綿の綾織り	茶色	1pc			
linsey (linsey)	麻と毛の交織	暗灰色	1pc	13.5d	if good	
roles	不明	茶色	1pc	6.5d/ell	探せ	
Normandy holland	麻織物	頑丈なもの			if good	
Bagg holland	麻織物	明灰色で縞柄	1pc	4s or 4s3d	if very good	2.4~2.6d/ell
		明茶色	1pc	9.5d/yd	if good	7.6d/ell
				5s and 8s4d/ell	見よ	
holland (麻布)	麻織物	tufted (房状の)			見よ	
callico	綿織物	シミなし青に染色				
mussling	綿織物	平織りで縞で上質		見よ		
shalloone	薄手のラシヤ織 (シャロン織)	黒	1	30ydで40s		20d/ell
		明灰色で筋染め	1			
		明るい鳶色	1		if good	
		赤				
fustians	綿と麻の交織 (ファスチアン織)	明るい色	1pc	20ydで19s	ポケット用	14.25d/ell
		平織りで明るい色		24ydで26s&30s	見よ	16.25, 18.75d/ell
		白	1pc	16s		
packthred	梱包用糸	白			見よ	
moohaire	モヘヤ	最上の黒	1/2li			
		良質の赤	1/4li			
		青	1/4li			
moohaire button	胸用ボタン	灰色		if 12d/grc		
		明るい鳶色		if 12d/grc		
wading	中入れ詰め物				見よ	
hancherchif	ハンカチ	赤と白の縞、青と白の 捺染以外で、最上を				

\* 内容はBritish History Online, Dictionary of Traded Goods and Commodities 1550-1820による。同dictionaryではGarlix hollandが1716年には16d/ellとされている。

\*\* 参考価格は1yd (ヤード)=1.25エル (=91.44cm)、1pc=pack=25ヤードで換算した価格。

略記号；li=重量ポンド, grc=グロス。

出典；前掲FRE530より作成。

では30s（1エルで18d）などとされている。一方また、カードル・リネンで白の自家製布は9dか9.5dであり、バッグ・オランダ織は「最上」のもので4sもしくは4s 3dとされ、同時に5sから8s 4dのものを探すよう指示されており、これも1梱の価格とすれば1エルで2.4d前後で大変安い。

このように、リネンの購入はおおむね1エルあたり15dの価格帯の商品が多いが、3d程度の安価な商品もあり、価格幅がかなり広い。同時に、柄や色においてもスコッチ織の縞柄や綿のチェック柄、あるいはバッグ・オランダ織で明るい灰色、明るい茶色などかなり詳細に指示されている。麻織物もしくは綿麻の交織であるオランダ織は薄手の織物で重要な服飾素材であったが（道重[2008], p. 13）、上に示したように、オランダ織であっても何種類が存在し、実際にその価格差は大きいことがわかる。

ブルロックの店では、リネンの後にシャロン織 *shalloone* という別項目が立てられている。シャロン織は毛織物の一種で薄手のラシャ織だが、主として衣服の縁取りなどに用いられる。しかし、この項目にはシャロン織以外に綿麻の交織であるファスチアン織 *fustians* やオランダ織、モヘアなどが含まれている。シャロン織は黒、明るい灰色、明るい鳶色、赤など様々な色彩が求められており、価格は黒のシャロン織が30ヤードで40s（1ヤードで16d）とされている。ファスチアン織も軽い色のポケット用や平織りで軽い色などの指定があり、前者は20ヤードで19s（1ヤードで11.4d）、後者は24ヤードで26s（同13d）もしくは30s（同14d）である<sup>1)</sup>。これらの価格はリンジー織と同じぐらいの価格で、購入されている布地の中では中程度である。また白いファスチアン織は1梱で16sとなっている。モヘアは最上の黒、良質の赤、中ぐらいの青といった色指定があるが、それぞれ1/2ポンド（以下lbと略記）、1/4lbなど重さでの購入であるので、ボタン、中綿などとともに布ではない可能性もある。

また、素材的にも麻ばかりではなくファスチアン織など麻と綿や羊毛との交織、さらにキャリコを含む綿織物など、多様な布地が様々な需要に応じて幅広い価格帯で購入されている。また、1720年というキャリコ輸入禁止の時期においても消費が制限されることなく、農村においてもこうした新しい流行の素材が広く受容されていたかがわかる。

なお、ブルロックの店では、シャロン織をのぞけば毛織物は購入されていない。ただし、シャロン織の項目の最後に詰め物 *wading* を探すように指示されている。一般に羊毛、馬の毛、綿、などを素材として衣類の詰め物に用いるものとされているが、衣服を加工する材料のために購入したものと思われる。ボタンやハンカチも購入されているが、ブルロックの店は絹織物や高級な毛織物といった衣料品の主たる素材となる布地を提供するというよりも、幅広い価格帯の多様な服飾素材を提供する店であった。

1) 第4-5表の参考価格は、1ヤード=1.25エル、1梱20エルとして、エル単位の価格を示している。

### 3) スタッフ織

レベッカ・ハッチが購入を指示されているもののなかで、毛織物中心の購入はキャノンストリートのクレメント小路にあるベアーズリの店と、大火記念塔近くのブラウンの店である（第4-6表）。但しブラウンの店での指示は、キャムレット・スタッフ織 *camblet stuffs* とキャリマンコ織 *callamancoes* などを「見よ」にとどまっているので、ベアーズリの店を中心に検討する。この店での購入指示はヤード幅のコベントリ・スタッフ織 *Coventry stuffs* という項目にまとめられている。16世紀に導入された新毛織物の一種である交織の織物がコベントリで生産されていたが（Kerridge [1985], pp. 34-5）、その一方でスタッフ織は梳毛糸の交織であり、ハッチの購入したものがこれらと同じであるかどうかは分からない。同時にバートン・スタッフ織 *Burton stuffs* や梳毛毛織物のキャリマンコ織もこの項目に入っている。

第4-6表 布地の購入

購入先	購入商品	色などの指示	購入量	価格	備考
ベアーズリ Beardsley	Coventry stuffs	ヤード幅			
		白		10 or 11d	見よ。
		格子柄；青白、黒白、緑白		9d or 9.5d/0.5yd	if good
	Burton stuffs			12d	見よ。
		新鮮な青	30yds	33sで	
		黄金色	30yds	33sで	
	Mouring	ヤード幅		15d/yd	見よ。喪服用？
	stuffs	深いチェリー色		16d/yd	見よ if good。
		レモン色と赤の混色			見よ。
		黒と白で圧縮したもの		34d?で	
		黒できれいなもの			見よ。
		赤と青の混色で圧縮したもの			見よ。
		青と白の縞で濃淡のあるもの			見よ。
	callamancoes	混色のヤード幅		11d or 12d/yd	見よ。
ブラウン Brown	callamancoes	混ぜ色でヤード幅		11d or 12d/yd	見よ。光沢のある縞織
	stuffs	混ぜ色でヤード幅			見よ。
	camblet stuffs				見よ。上質梳毛織物
	callamancoes				見よ。

略記号；doz＝ダース。備考は指示内容で、「見よ」「探せ」「良ければif good」など

出典；前掲FRE530より作成。

ここでも色彩が青と白のチェック柄、黒と白のチェック柄、緑と白のチェック柄があり、バートン・スタッフ織では青、金色などがある。他にも色に関してはチェリー色、レモン色と赤の混ざったもの、赤と青が混ざったもの、青と白の縞柄などがあり、きわめて多彩である。価格帯に関してみると、スタッフ織ではそれぞれ1ヤード9dから12dぐらいであるが、良質のバートン織の鮮やかな青は30ヤードで33s（1ヤード13.2d）となっており、やや高めである。キャリマンコ織は1ヤ-

ド12dでスタッフ織とほぼ同程度である。このように、バートン・スタッフ織でも30ヤード単位の価格が表示されているので、卸売りではこの程度の長さを単位として、場合によっては梱単位で販売されていたものと思われる。スタッフ織は大火記念塔近くのブラウンの店でも探すように指示されているが、ここでは様々な幅の布地を検討することになっている。また、キャムレット・スタッフ織とキャリマンコ織も検討することを指示されている。これらは定期的に購入していたものではなく、良いものがあったら買う程度の追加的な指示だと思われる。

なお、‘Mourning’とされるものがあり、これがmourningであるとするならば喪装用の素材が提供されていたことになる。この喪装はヤード幅のもので1ヤード15dでありその他の服地と大差がない価格であるが、この18世紀においては、喪装は社会的にかなり重要な要素であったので特別な布地が用意されても不思議ではない（道重 [2008], p. 16）。

### （３）衣料品；ホーズ、胴着、コルセット、帽子

#### １）ホーズ

目次の上では、小間物類の次に指示されているのはホーズhoseである。ホーズは中世以来男性用の半ズボンとされてきているが、17世紀には紳士向けの半ズボンはブリーチbreechが主流となっていた点を考えると（Breward [1995], p. 43, 78）、半ズボンというよりも靴下であったと思われる。ホーズは何種類かの布地とともに、前述したロンドン橋近くのジョン・スミスの店で購入することになっている（前掲第4-4表）。指示書のなかで、ホーズは紳士用ばかりではなく、子供用や婦人用のホーズも載せられている。梳毛糸のホーズが別に記載されており、一般的な刷毛糸と梳毛糸との素材的な区別があったものと思われる<sup>2)</sup>。

子供用のホーズは多様な色の商品が含まれているが、梳毛糸製のものにはない。子供用は白、水玉、青、青で大きなものの4種を、それぞれ3組から1ダースで購入している。婦人用の場合は通常の刷毛糸製と梳毛糸製のものがあり、色も各種ある。前者では明るい青4組と緑2組を計10dで、藍色3組を12dで、青3組を14dといった形で購入し、梳毛糸製では青の大きいもの3組を20dで購入するよう指示されており、また、紳士物は小さいもの3ないし4組を12dで購入することが指示されている。このほかに婦人物の黒、少年用中サイズと大サイズ、軽い色の紳士物などについて、やや高額な梳毛糸製のものを4から6組で2s 2d、3から4組で2s 10dの価格で探すように指示されている。

2) ‘House of Commons Journal Volume 10: 24 November 1690’, in *Journal of the House of Commons: Volume 10, 1688-1693* (London, 1802), pp. 480-2. British History Online <http://www.british-history.ac.uk/commons-jrnl/vol10/pp480-2>では毛織物検査課税Aulnage dutyの対象として毛織物製品としてのhoseがあげられている。



子供用と婦人物は色の違いで需要が異なっており、多様な品揃えを必要としたと思われる。価格は、紳士物で若干高い場合があるが、全体としてはそれほど大きな違いはない。但し、同じ子供用や婦人物でも色に応じて多少差があり、婦人物の青の3組で14dは高い方である。

## 2) 胴着 胸着、コルセット

衣料品でホーズと同様に多くの指示がおこなわれているのは胴着bodies (bodice) である。胴着は大火記念塔近くのリード夫人の店で購入するよう指示されている。ここからは史料の順番とは離れるが、ホーズに続いてその他の衣料品を順に見ていくことにしたい。胴着は女性の衣服で、上下に分かれている上部が胴着であり下部はスカートとなるが、上に長いガウンを羽織ると全体としてはつながったドレスに見える。胴着は、女兒用を2着で4s 6d、メイド用2種を各2着ずつ6sもしくは6s 6d、婦人用を3種各2着ずつ7sもしくは7s 6dで購入しており、それぞれサイズ単位で記入されている<sup>3)</sup>。女兒用は7.5ネイル(約43cm)、メイド用は1/2ヤード1ネイル(約51.5cm)と1/2エル(約57cm)、婦人用は1/2ヤード1ネイル、1/2エル、1/2エル1ネイル(約63cm)となっている。胴着に関するサイズはおそらくウェストサイズに合わせたもので、サイズに合わせて価格が設定され、サイズごとに一定の標準化がおこなわれていたものと思われる。

一方、ハッチは同時に自分の娘用に胴着の購入をしている。ここでは、「腕の下の長さ8インチ、背中丈11インチ、ウエスト周り1/2ヤード、胸回り3/4ヤードで鮮やかな青」と、サイズや色に関してより細かい指示がなされている。自分の娘用には体により合うように細かなサイズで購入しようとしたのであろう。娘のために購入しようとした胴着が、既製品であったのか微調整可能な(イージーオーダーのような)ものかどうかは不明である。残念ながらここには価格の指示がないので、標準化された胴着よりもどの程度高いかは分からない。いずれにせよロンドンの専門店においては多様な在庫の品揃えがあり、細かいサイズが揃えられていたか調整が可能などちらかであった可能性が高い。

このほかに胸着stumecher (stomacher) などを見るようにも指示がなされている。胸着は胴着の空いた部分を埋めるために着用するものであるから (Ashelford [1996], p. 128)、これらが同時に購入されることは不思議ではない。また、胸着はそれほど多様なサイズを必要としないこともあり、詳細な指示がなされていない。

ステイstayはコルセットとほぼ同義と思われるが、胴着や胸着と同じくリード夫人の店で購入されている。コルセットは籐や鯨の髭などを用いて体型をととのえるための女性用下着で子供の時から着用するとされている (Willett & Cunnington [1992], p. 87)。ハッチはここで子供用のステイ

---

3) ここではネイルnail (1nail=1/16ヤード=5.751cm) という単位が利用されている。

を‘first size’から‘sixth size’までの6種類、合計9組購入しようとしている。子供の成長に合わせて大きいステイを着用させたものと思われるが、同時にステイもサイズに応じて一定の標準化がなされ、販売されていたものと思われる。

### 3) 帽子、その他

ハッチはナイトキャップと梳毛糸製の縁無し帽子、それに個人用の帽子を購入している。色のついた梳毛糸製の男性用縁無し帽半ダースの購入は、ホーズを購入したスミスの店でおこなわれているが、白色のものも検討するよう指示がなされている。ナイトキャップは小間物商のエドワード・アーサーから購入されているが、ナイトキャップは衣料品としてではなく、小間物と同時に販売されていたものと思われる。一方、夫スティーブン用と息子用の帽子が別途購入されている。これは明らかに自家用だが、大きさがスティーブン用は24インチ半（約62cm）、息子用は23インチ（約58.4cm）で価格は8dから9dが想定されている。やはりここでも、頭回りの大きさに標準化された帽子が生産され販売されていることが分かる。しかし、購入したのはトラヴィリオリオンの店で、この店では後述するように様々な雑貨品の購入が指示されており、帽子専門の店ではない点に注意する必要がある。同じように麦わら帽子も検討するように指示されているが、これもブラシなど雑貨を売っているウッズの店からの購入である。ハッチの帽子購入は帽子専門店ではなく、比較的安価なものを雑貨店から購入している。

スティーブン・ハッチの指示による衣料・服飾関係のロンドンにおける仕入れを検討してきたが、大別すると小間物など服飾材料、布地そしてホーズなど既製の衣料品の三つに分かれる。このうち服飾材料・小間物は、仕入れ指示書の冒頭におかれ分量も最も多くさいて記載されている。18世紀半ばに各種の職業について詳細な説明をおこなったR・キャンベルが服飾小物商について女性の「美しさを引出、虚栄心を膨らます」（Campbell [1748], p. 208）職業と述べているように、レースなど服飾材料は女性の衣裳を飾る重要な要素であった。その点で、服飾材料を大量に購入しているハッチは、男女を問わず都市的なファッションをサセックス農村部へ伝える役割を担っていた。

しかし、購入された小間物類は幅広い価格帯の商品からなっており、非常に多彩な色合いに満ちていて、ことにアーサーからの購入品目には多様な刺繍糸が含まれている（前掲第4-2表）。装飾用のレースやテープ、リボン、またブルロックから購入した多くの梳毛糸なども合せて、これらの小間物類はサセックス農村部では、業務用に使われたというよりも家計内における自家用向けであった可能性が高い。オランダの店で購入された繕い用やキルト用の針は（前掲第4-3表）、家計

内で装飾用の素材を衣裳などに付加するために用いられたと考えられる<sup>4)</sup>。これら服飾用の素材購入に当たってことに重視された点は、詳細にまた繰り返し登場する色彩とチェックなどの織り柄である。ハッチのような小売業者にとって、衣料品のデザインは直接関係することがないが、消費者自身が使用する際の要望に合わせた色彩と素材の提供が極めて重要な要素となっていた<sup>5)</sup>。

その一方で、大量に購入されたボタンや多種のお針子用針の存在は、専業か副業であるかは別として、職業的な縫製業の存在を推定させる。ハッチ自身がこうした生産を組織する経営をおこなっていた可能性もあるが、史料FRE529で見る限りこうした縫製の委託生産をうかがわせる支出はない<sup>6)</sup>。他方で、購入を指示された布地類には、絹などの高級素材は含まれず、ブルロックの店で購入された布地は麻布を中心に綿布や綿とその他の交織ものが中心である。また、毛織物であってもスタッフ織など薄手の生地が購入されている。ハッチが購入した布地が衣服に仕立てられるとすると、宮廷や貴族層向けの高級な絹地や重厚な毛織物は用いられておらず、比較的安価な軽量の素材が用いられることになる。しかし購入されたこれらの布地は衣服に仕立てるための材料と言うよりも、裏地やテーブルクロスなど家庭内で様々な用途に用いられていたように思われる。

また、既製のものを購入した衣料品は、ホーズ、胴着などに限られており、紳士物では上着としてのコートや下着としてのシャツ、婦人物では上着のガウンや胴着の下部でスカートに当たるベチコートなどは存在しておらず、衣服の基幹的な部分は購入されていないことになる。サイズの標準化が必要な既制服は、軍服のような大量に生産され使用されるものは別として、18世紀においては限定的であると考えられるが、ハッチが購入した胴着はウェストサイズによって標準化おこなわれており、既製品として多量に生産しても販売可能であったものと思われる<sup>7)</sup>。

ハッチの仕入れに上質の布地が含まれていないことは、農村地域であっても比較的富裕な社会層はロンドンの仕立商へ直接衣服を発注した可能性を示している<sup>8)</sup>。だが、普通の庶民も、例えばライなど近隣の都市の反物商やマーサーから購入した生地を、ハッチ自身が発注しているように地元の仕立商へ製作を依頼していた可能性が高い。もちろん、一般の庶民にとって古着が上着類の供給

---

4) ロンドンでは服飾小物商が、服飾材料を販売するとともに流行に合わせて加工することもおこなっていた。道重 [2008], pp.20-2。しかし、農村部においては、各家計が自ら加工していた可能性が高い。

5) アメリカ植民地からロンドンの代理商へ発注された繊維製品においても同様な傾向を見て取ることができる。例えば、P. L. White, (ed.) [1956], *The Beekman Mercantile Papers*, Vol. II, pp. 773-4などに見られる発注状況を見よ。

6) 上述のトーマス・ターナーは、時期は少し後だが、衣料品の委託生産をおこなっていた。道重 [2019 (a)], p.31。

7) レミアは、大量に販売された既製衣料品として胴着をあげているが、標準化については触れていない。Lemire [1997], pp.62-3。

8) ロンドンへの直接発注については、Buck [1979], p. 67, Weatherill [1991], p. 298. および道重 [2014], pp. 71-3。

に果たした役割が重要であるが（Lemire [1991], pp. 61-4）、新しく仕立てたか古着であるかを問わず、消費者の多くは高価な衣裳を流行に合わせて買い換えることなく、ハッチの仕入れに見られるような様々な種類と多彩な色の服飾材料を付加して加工し、流行に適応していたと思われる。その際、仕入れ品の購入における色彩と柄へのこだわりは、こうした要素が流行を媒介する流通業者にとってとりわけ重要であったことが分かる。他方で、購入された麻布などは家庭的な用途以外に、下着であるシャツなどに縫製された可能性も高い。

## 5 繊維・服飾関係以外のロンドンでの仕入商品

### （1）釘など建築用の金具

ハッチはきわめて多種の建築用金物類を、ティクストンの店で購入するように指示している。ここではほぼ例外なく購入が指示されており、品物を見てから購入を検討するような曖昧な指示はないので、金物類はいつも決まった形で購入される商品群と考えられる（第5-1表）。最も多いのは釘である。通常の釘は値段によって6種類で、その購入量も19オンスから22lbまで多様である。価格は $\bar{m}$ （メートルという意味ではない）という内容不明の単位と袋bagという2種類で表記されているが、 $\bar{m}$ を単位とするものでは1 $\bar{m}$ あたり2s20dから4 $\bar{m}$ で4dまでかなりの幅がある<sup>9)</sup>。1 $\bar{m}$ あたり2s20dの釘は19オンスしか購入されていないが、一番安い4 $\bar{m}$ で4dの場合には6lb購入されている。1袋の場合、1袋6dと0.5袋5dのものがあるが、後者は13lbの購入である。 $\bar{m}$ も袋も実態は不明だが（ $\bar{m}$ がローマ数字の千から千個という可能性はある）、単価の高い釘は大きさも大きかったものと考えられるし、使用頻度も少なかったので、購入量が少なかったものと思われる。釘については、「大きな」「より小さな」とされる釘がそれぞれ500本と1000本購入するように注意書きがついているが、どの釘を指すのかは不明である。

形状が明らかに異なる釘も何種類か存在している。頭が丸く短い釘は塗装されているものがあり、また蝙蝠折れ釘bad bradは長さが0.5インチから2.5インチまであり、2.5インチのものは1 $\bar{m}$ 購入され4dであった。こうしたものに加えて円頭の釘round headや鉚tacksがあり、また“priggs”、“small payle nail”などの名称の釘と思われるものがあるが、その内容は不明である。

釘以外の金物類にはラス（建築用下板）lath、継ぎ手jointなど建築用資材、金具であるハンドル（塗装された大きいものを12パック、錫のものを6パック）、蝶番、木ネジ、鍵穴を隠す金具escutcheonがある。また錠前などもある。鍵穴を隠す金具については鍵穴を交換するか鍵穴を大きいものにするように指示がなされており、鍵穴とそれを隠す金具がセットで販売されていることが分かる。食器棚の引出用やその鍵なども複数個購入している。若干であるが建設用の錐などの道具も含まれて

9) 釘の価格として3s8dでなく2s20dと記載している理由は不明である。

第5-1表 ティクストンTxrtoneで購入した金物類

購入商品	指示内容/特徴	価格	数量	備考
釘		2s & 20d	19 oz	
		12d,	22 li	
		10d,	18 li	
		4d/1 $\bar{m}$	6 li	
		6d/1bag,	12 or 13 li,	
		5d/0.5bag	9 li	
	large, smaller		各500, 1000	
	priggs	2d	2 $\bar{m}$	$\bar{m}$ は単位。
	ronn [round?] head	2d	2 $\bar{m}$	
	small payle nail		2 $\bar{m}$	
蝙蝠折れ釘	2.5~0.5inch	4d~2d	1 $\bar{m}$ ~2 $\bar{m}$	
留め金、鋲	tined	2d	5 $\bar{m}$	
	middle		1 $\bar{m}$	
円頭で短い釘	lackerd	2d, 3d	各3 $\bar{m}$	
ラス	short, long		4 $\bar{m}$ 4li, 10 $\bar{m}$ 4li	建築用下板
		3d	1 bag 3li	
落し金	middling size		2doz	ベッド用
木ネジ	2 inch, 2.5 inch long		3doz, 1 doz	
蝶番		22d/doz	6pc	
継ぎ手		2s4d/doz	6pc	
ハンドル	large lackerd ffast	8d?	12pc	ラッカー仕上げ
	tined	5.5d	6pc	錫製
錠前	outside box lock	4s/doz	1doz	外部の箱用錠前
	large strong drawer		6	引出用錠前
錠前部品	town made	14d or 15d	3	[ward]錠の中の突起
鍵穴金具	鍵穴より小さいので大きいものと交換。両側に鍵穴を持ち、両側から使える。		23	
食器棚の引出	very small		6	鍵穴2つ用
引出の鍵	bright			
手錐	large	10d	1doz	
錐の穂先		15d or 16d, 13d or 14d	各2	
		6 or 7d		
千枚通し		6d	1doz	
意味不明		6 or 7d	2	Banbury

出典：前掲FRE530より作成。第5-1表の購入商品は日本語の訳語とした。

いる。ティクストンの店は建築用の資材専門の店で、この店ではかなり大量の釘や建設用資材などが購入されており、ハッチはノーシャムの普通の住民たちへ日常的な家や家財の補修に用いる金物類を供給していたと考えられる。

## （2）金物、刃物

既に述べたようにクルック小路のトーマス・オランドの店では、クルック小路物という一括りにされた商品を購入している（前掲第4-3表）。クルック小路物としては、前述のボタンや縫い針など縫製用品とともに様々な金物類や雑貨品があり、そのなかには大小1オンスずつの釣り針と2ダースのかぎ針hookがある。

また、金属加工品として子供用と紳士用の靴のバックルもある。児童用は大小2種で大きい方はさらに値段が安いものと高いものに分かれる。特に指示のないバックルは1ダースの購入で価格は14dもしくは15dとなっている。少年用で大きいサイズと指定されているものは1ノブknobで14dと2sとされやはり1ダース購入されているが、このノブという単位の正確な量は不明である。紳士物はハート形のついたもの2種とつかないもの3種だが、つかないものはノブあたり2s 6dでハートのついたものは4sとなっており、ハート形のついた方がかなり高い。このほかに靴の留め金claspなどを購入している。ハッチの店の支出でも、1713年8月に靴のバックルを、いつもは火薬を購入している地元のハモンドから2s 2dの価格で購入している。しかしバックルの購入記録は、それほど頻繁に登場はしないので、その多くはロンドンで仕入れていたものと考えられる。

クルック小路物には、ハサミなどとともに各種ナイフも含まれる。肉屋用ナイフはダース単位での価格が指示されているが、半ダースしか購入されていない。このナイフは、肉を捌くために肉屋以外でも小売されていた可能性がある。また、食器としてナイフとフォークのセットが、折り畳みナイフとフォークのセットとともに登場する。ナイフとフォークは一組5dから6d、折り畳みナイフの方はダースで2sとなっておりそれほど安いものではない。イギリスにおける食事は17世紀までナイフと手でおこなうことが普通で、液状のポリッジなどにスプーンが使われるに過ぎなかったが、18世紀に入るとフォークが日常的に用いられるようになるといわれている（Weatherill [1988], p. 153）。その点からすると、1720年前後にフォークが折りたたみナイフとともに1ダース単位で購入が検討されていることは、イングランド南部の農村部では18世紀の早い時期からフォークが用いられていることを示している。

ハサミには通常ハサミscissors (scissors) と羊毛用ハサミsheathes (shears) の二種類があり、布地の裁断や縫製、仕上げ、また牧羊用品として販売されていたものと思われる。羊毛用ハサミはシングルとダブルの2種各1ダースずつ、中ぐらいの大きさのものが購入されているが、ハッチ自身の支出のなかにも羊毛の刈り取りを依頼したものがあり、サセックスの周辺農村で日常的な羊飼育

がおこなわれていたことを反映した商品である。また、通常の手サミは大きくて強いものが1 ダース3sから4s、刃先がそれほど尖っておらずこれより少し安い14~15dのものが各種3~4 ダース購入するように指示されている。

ハサミは、ウィリアム・ウツドの店でも購入されているが、ウツドの店ではハサミ3丁の研ぎをするように指示されており、また「大変良く新しい」カミソリの購入がおこなわれている。ウツドの店にはロンドンについてすぐに行くように指示されており、ハサミの研ぎには時間がかかるので滞在中に仕上がるように、到着後すぐに行くよう指示がなされたと考えられる。しかし、研ぎに出されたものは3丁であるから、自家用の可能性と顧客から依頼された両方の可能性を考えなければならないだろう。

同名のウツドがウィリアム・ウツドの前にもう一軒あるが、「白い牡鹿亭」の向かいとして記載されているので、上述のウツドとは異なる店である。この店では、各種ブラシを購入しており、「くぎを打ち付けるための締めブラシ」Clamp brushes to naile (sic) onとか「織布工のブラシ」weavers brushesなどが、1 ダースとか半ダースとかで購入されている(後掲第5-3表)。また、酪農用ブラシDary [dairy] brushも半ダース購入されているが、これは1 ダースで3sと比較的高価なものである。

### (3) 陶器

食器は、陶器 Earthen Wareの表題の元に「病院近くの」ポーツマスPortsmouthの店で購入するように指示されている(第5-2表)。食器は垢器とおもわれるstone cannがかなり登場するが、蓋付きと思われるsealedという語が付け加えられていることからビールなどを飲む際のマグカップと考えられる。これらの陶器製と思われるコップは、他にも色が白と青の二種類そして白地は1 パイント、半パイ

第5-2表 ポーツマスPortsmouthの店で購入した陶器

購入内容	購入商品	商品内容	指示内容	価格	数量	備考
マグ	sealed stone cann	蓋付き陶器マグ	1 pint		1 doz	
	stone cann	陶器マグ	1/2 pint, 1/4 pint		各1 doz	
	white cann		1 pint, 1/2 pint		各1 doz	
	blue cann		1 pint, 1/2 pint		各0.5 doz	
食器	platter	大皿	white	18 d	1 doz	
	bason[basin]	鉢、ボウル	white	2 d, 4d	各0.5 doz	
	coffee cup		white, brown		各1 doz	
	tea cup		painter		1 doz	
	toast pot	加熱用深鍋				
	custre[castard] cup	カスタードカップ	white			see
	bason[basin]		breakfast			see
尿瓶	chamber pot		green, best white		1 doz, 2 doz	

出典；前掲FRE530より作成。

ント、1/4パイント、青地は1パイント、半パイントなどの大きさとなっており、購入量は青地が半ダース、他は1ダースであった。

マグ以外には暖めるための壺と思われる大きなトースト・ポット toast pot、尿瓶、大皿 platter、水盤 bason (basin)、カスタード用カップ custre cupなどがダース単位で購入するか、購入を検討するように指示されている。さらに白と茶のコーヒー・カップや彩色されたティー・カップなどもダース単位で購入が指示されている。伝統的なエールやビールのためのマグカップばかりではなくこれらのカップ類を仕入れていることは、1720年代初めに農村部でもコーヒーや紅茶の飲用がかなり拡大していたことを示している。残念ながら価格については、大皿が18d、水盤は2dと4dのものがあることしか分らないが、これが1個であるとしてもそれほど高価なものではなく、従来の木製やピューター製に加えて、多様な都市的な食材とともに陶器が日常的な食器として当時の農村に登場したと考えられる。

#### （４） 雑貨

##### １） 文具

クルック小路物という括り方は同様だが、オランダの店では様々な雑貨類も購入されている（前掲第4-3表）。かぎタバコ入れ、ナイフボックス、引出、真鍮製の印章といったものに加えて紙箱が購入されている。しかし文具類は他の店で購入されている。紙はサザックにある「金のライオン」標章のアスポーンでの購入量が多い（第5-3表）。筆記用の上質の大型紙（13インチ×17インチ）1締めream（480枚）を15sで、筆記用の普通紙1締めを9sで購入しているほか、中質紙 middle hand も1締め（価格なし）で購入している。同時に鵞鳥ペンを100本購入している。

文房具類としてはチームズストリートのウィリアム・フォジソンの店で、インクの原料となる油煙 lampblack を一バレル barrel で18dもしくは2sのものを1ダース、また1ダースあたり8もしくは10sというインクも半ダース購入している<sup>10)</sup>。大量に購入された油煙は溶かして小売りされたものと思われる。なお、油煙は「安全に納品されるならば」という注意書きがあるので、購入された荷物は特別に輸送された可能性が高い。「間違った舟 hoy に、彼の間違いで積み込んだことに苦情を言うこと」というメモがついており、少なくとも舟でロンドンから出荷されたことは確実である。これらは洗面所 labtery (lavatory) の項目で購入されているのだが、同じ項目で最上の酢1ホグスヘッド hogshead が購入されている<sup>11)</sup>。項目から考えて食料品ではなく洗浄など別の用途に使われたもの

10) 1バレルは通常36ガロン（約160リットル）。一方、「インク1ダースあたり」という価格設定は意味不明である。一瓶単位のものが12本まとめて販売されていたのかもしれないが、仮にこの場合は1瓶10dであり、バレル単位で購入されたものが1ガロン0.5dであるから、これに比べるとかなり高価なものとなる。

11) 1ホグスヘッドは52.5ガロン（約238.7リットル）。



第5-3表 ブラシ 文具 薬品

購入先	購入内容	購入商品	指示および内容	価格	数量	備考
ウッド Wood	ブラシ	clamp brush	締め金ブラシ	to nail on?		1doz
		brush	酪農家用	best Dary [dairy]	3s/doz	6
		weaver brush	織布用ブラシ	best		4pair
		straw hat	見よ			
アスポーン Usborn	紙	foolscap	best writing	15s	1ream	フールスキャップ紙 (13×17インチ)
		paper	writing	9s	1ream	
		middle hand			1ream	
	ペン	Pen		12d	100本	
	書籍	book	pocket, broad	5d	3	
			pocket, long	5d	3	
	薬品	elixir	Stoughtons		6 bottles	万能薬?
		scurvy grass	plain spirts		6 bottles	ともしり草 (壊血病薬)
フォジソン ffodgson	インク	lampblack		18d or 2s/barrel	1doz	油煙 (インク原料)
				8 or 10s/doz	1/2doz	安全に納品できれば
	ゴム	ruber	fine		1/2cwt basket	
	酢	vinegar	best		1hogshead	昨年買ったと同じもの
	明礬	allom [alum]	good & cheer		14li	
フロミング Floming	コルク	gorse best			8 or 10 grc	
		vial cork,	if very small		1 or 2 grc	薬瓶用
ピーターソンズ Petersons	梱包材	packthred	ordinary fine	1/2d bottoms	3li	
				1d bottoms	3li	
				1/4d bottoms	12li	

出典；前掲FRE530より作成。

と思われる。また、媒染剤である明礬が14ポンドと上質のゴムが購入されている。ゴムの用途は不明である。

一方、フィッシュ・ストリート・ヒルで「ピーターボート」の標章を掲げたジェームズ・ピーターソンズの店では、梱包用の糸packthred (thread) がボトムという単位で0.5dのものの3 lb、1dのものが3 lb、1/4dのものが12lb購入されている。これらが今回の購入品を輸送するためのものなのか、あるいは地元で利用するためのものなのかは不明である。また、薬瓶とその蓋になるコルクの購入が、サザックのレッドクロスストリートにある「子羊」の標章を掲げたフロミングの店で、コルクが8ないし10グロス、非常に小さい瓶が1ないし2グロス購入されている。大量に購入されているのは、地元で調味料などの粉末か何らかの液体を入れるために使われてものと思われる。

## 2) 櫛

ロンドン橋近くで「イノシシの頭」の標章を掲げたチャールズ・ドーの店では櫛の購入という表題で指示がおこなわれており、またこの店では櫛しか購入されていない (第5-4表)。ほぼ櫛を専門的に扱う店であると考えて良いと思われる。まず象牙製で、2d (6個)、3d (18個)、5d (18個)、

第5-4表 衛生雑貨

購入先	購入内容	購入商品	指示内容	価格	数量	備考
ドー Doo	櫛	Ivory Comb	Ivory	@2~8.5d	60	
			dandrif (ふけ) 用	@4.5d	3	
			fine	@ 2d	6box	
		horn comb	small and strong	14d/doz	2doz	
			larger	16d/doz	1 doz	
			thick & strong	2s	1 doz	
			thick & strong	3s/doz	1/2doz	
			wigg comb	2s/doz	1/2doz	
レイナルド Reynald	糊	best Poland		12 li		
		white if &c		1 kildekin	38s/cwt	価格は昨年のも (16-18ガロン入り中樽)
	染料	indico		2s6d ~ 3s6d/li		see
トラヴィ リオン Travillion	洗濯石鹼	balls	best	18d, 12d	各3doz	
	白粉入れ	powder box		12d & 2s/doz	各1/2doz	
	白粉パフ	puff		8d or 9d	1doz	
	香水	Damask scent			1/2li	香水
	香水	essence lemon		1/4li, 1/2li, 3li	18個	
リーダー Leader	石鹼	berst ordinary	long cut	12d or 12.5d/li	3cwt1/2	
			very best	2 or 3 half barrels		

出典：前掲FRE530より作成。

6d（6個）、7d（6個）、8.5d（3個）などと価格が異なる櫛が購入されており、さらに6箱の上質で2dの櫛および象牙製フケ用dandrifの櫛が4.5dで購入されている。これとは別に角製の櫛が小さくて頑丈なものを14dで2ダース購入し、より大きいものが16dで1ダース、厚くて頑丈なものを2sで1ダース、3sのものを半ダースそして最後にカツラ用の櫛を2sで半ダース購入するよう指示されている。

地元での日常的な支払の中でも櫛の購入が頻繁に登場し、多くは近くの村ウィンチェルシーの製造業者から購入されており、その中には象牙製の櫛も含まれている。しかし、ロンドンでも櫛が多様で大量に購入されていることは、ウィンチェルシーの製造業者とは異なった品質や特性を持つ櫛がロンドンでは購入可能であったものと思われる。従って農村部でそれだけ髪に毛に関心を持つ多様な需要が存在し、さらに髪も使用されていることを意味している。なお、クルック小路のオランダの店では櫛用のブラシを見るように指示がなされている。櫛を清掃するためのブラシと思われる。

### 3) 衛生雑貨

サザックにあったマーシャルシー監獄そばのレイナルドの店では衛生雑貨といえるような様々な雑貨類が購入されている（第5-4表）。各種の糊では「最上のポーランド」を12lb、その他の糊を1樽kildekin（kilderkin=16-18ガロン入り）で購入し、インディゴ（染料）はlbあたり2s 6dから3s 6d

で探すように指示されている。前述の油煙を販売していたフォジソンの店では明礬も、良質なもので探すという条件で14 lbを購入するよう指示されており、上記のインディゴと合せて染色に用いられてものと思われる。フォジソンの店はインク材料と合せて、染色材料などを販売する店であったと思われる。

また場所は不明であるが、順番から行ってレイナルドの店の次になるトラヴィリオンの店では、「洗濯ボール」および粉という項目のもとで、固形洗剤としてのボールが最上の18dのものを3ダース、12dのものを3ダース、その他にはパフを8dか9dで1ダース、香水Damask scent (1/2lb)、パウダーボックスを1ダース12dの価格で半ダース、レモンエッセンス18個などが購入されている。レモンエッセンスは挽いて箱に入れるようになっており、固形のものを粉末にして利用したと思われるが、これら香水やレモンエッセンスは洗濯用の芳香剤として用いられたのかもしれない。なお、トラヴィリオンは蜜蝋をハッチが納入した先でもある。他方、石鹸はセント・ツールズ通りで「金の心臓」標章を掲げたのリーダーLeaderの店で、最上のものを2もしくは3樽1/2というかなりの量で購入している。しかし、この店での購入は石鹸だけであったが、これだけの量になると別送の可能性が強いし、またこの石鹸は洗濯用ではなく縮絨など他の用途に用いられた可能性もある。

## (5) 食料品、医薬品

ロンドンでおこなわれた多様な薬品や食料品の仕入れは第5-5表に示したとおりである。コーンヒルで「三天使」の標章を掲げたパートレットの店では、香辛料を含む種々の薬剤を購入している。このパートレットはやはり蜜蝋を販売した相手でもある。液体状のものと思われる硫黄を2 lb、コリアンダーの種を2 lb、クミンを1 lb、単鉛硬膏diachilon (diachylon) を1 lb、エリクサー-elixir という万能薬や芳香のある薬剤フェネグリークfenugrick (fenugreek) を1 lb、アラビアゴムを2 lb、甘草liquorish (licorice) を1 lb、殺菌剤などに用いるメリロットmelilotを1 lb、テレピン油oyle tirpentine (terpene) を瓶4本購入している。なお、Grumbalはひよこ豆 (gram) の可能性はあるが、明らかではない。またサフラン、硫酸oyle vitriol、駆虫薬worm seedなども購入しているが、これらの購入量は単位が略記号のため解読できない。その他、水銀とかウコンなども購入している。一方、「グレイハウンド亭」裏のオースチンの店ではハンガリー水を購入している。このハンガリー水は蒸留酒の一種で、薬用にも用いられていたようである。同時に湿布材としての酢鉛を4 lb購入している。

また、ブリムストーンにある「白い牡鹿亭」近くのマノックの店では、様々なエキゾチックな食料品が購入されている。薬剤ともいえる硫黄はここでも購入されているが、主に購入されたのは香辛料を含む食料品である。香辛料ではジャマイカ胡椒、ナツメグ1 lb、そして白胡椒1 lbが購入されている。砂糖は精製された砂糖の塊lumpを2ないし3購入している。このほかにもかなり

第5-5表 食料品、医薬品

購入先	購入内容	指示	価格	数量	備考
バートレット Bartletts	硫黄			2 li	液体？
	コリアンダー			2 li	
	クミン			1 li	
	単鉛硬膏			1 li	
	万能薬			2 or 3 [ ]	
	フェネグリーク			1li	芳香剤
	アラビアゴム			2li	
	Grumbal			4[ ]	ひよこ豆 (gram) ?
	スペインジュース			2li	
	甘草			1li Po	
	メリロット			1li	芳香剤 (ハーブ)
	解毒剤			2 or 3 [ ]	
	テレピン油			4 bottle filled	
	サフラン	最上のイギリス製		1 [ ]	
	水銀			1/2li	
	ウコン	丸ごと		1li	
				1li	
	硫酸			2 [ ]	
	駆虫剤			4 [ ]	
	ヒレトリウム根			1/2 [ ] or 1 [ ]	睡眠薬
オースチン Austin	薬酒			1qur	ハンガリー水
	鉛酢 (湿布材) ?	最上の青 精製		4li 2 or 3 lump	
マノック Mannock	砂糖		30 or 31s/Θ		
			40 or 41s/Θ		
		適度な湿り気	48 or 50s/Θ	2 Θ	湿気が多すぎない
	茶砂糖菓子			1 li	
	胡椒	ジャマイカ産	9d		
		白胡椒	Glew 46?	1 li	
	ナツメグ			1 li	
	ブルー	良ければ		見よ	
	イチジク	良ければ		見よ	
	レーズン			0.25 Θ	
		マラガ		2 or 3 basket	
		スミルナ		見よ	
バイン Bayne		velvadore		見よ	不明
	硫黄			7 li	
	焙煎コーヒー	高価すぎなければ			
	ココア豆	新鮮な最上級品		2 li	
	ココア			2 li	
	ビスケット		1/2d		
	糖菓			3 li	comfit
		アーモンド入り		2 li	
ウィッケンデン Wickenden	ピーナッツ			1 li	
	チョコレート	最上		2 li	
ハイランド Mrs. Hyland	チーズ	ウォリック製		2 Θ	
	タバコ	最上、long cut		3cwt	
		普通、long cut	12d or 12.5d/li	3cwt1/2	

(注) [ ] は判読不能の単位を示す。本表では、購入商品は示さず購入内容を日本語で表記した。  
出典：前掲FRE530より作成。

の砂糖を購入しているが、この際の単位 $\Theta$ をハンドレットウェイト (cwt=112lb=約50Kg) とすると、cwtあたり48~50sの砂糖を 2 cwt購入しさらにcwtあたり30~31sと40~41sのものも購入し (購入量不明)、「ひどく湿っていないように注意すること」という注意書きがある。これらの砂糖は 1 lbあたり 3 dから 5 d程度となり、それほど高価ではない<sup>12)</sup>。これらと並んで茶色の砂糖菓子 (キャンディ) を 1 lb購入しているが、黒砂糖的なものかもしれない。レーズンは、マラガのレーズン 2 ~ 3 籠とその他にスミルナのもの、ヴェルヴァードールのものを見るように指示がなされている。これらの区別が産地別なのか特定のブランドなのかは分からない。ブルーンプレーワズ (prune)、イチジクなどの熱帯性の食品についても検討するように指示されている。

エキゾチックな食料品は、サザック、マーシャルシー監獄そばのペインの店でも購入されている。ココア 2 lb、コーヒー (焙煎したもの)、チョコレート 2 lbなどの飲料用の食料品が購入されて、またピーナッツを 1 lb、ビスケットまたコムフィットcomfitという砂糖菓子が 2 種類、一つは 2 lb とアーモンド入りを 3 lb購入している。これらの商品の価格は不明である。興味深いことにここには茶は一切含まれていない。ノーシャムでは、陶器の購入などから考えて、茶が飲まれていなかったとは思えないが、ハッチの購入リストには茶は一切含まれていない。

ファウンテンタバーンのそばにあるウィッケンデンの店では、安くて良質ならという但し書きがついているが、2 cwtのウォリック製のチーズが購入されている。トーマス・ターナーの場合はウォリック製のチーズを直接購入しており、ウォリック製チーズはかなりブランド化されていたようだ。両者の違いは、18世紀後半にはロンドンを介しない直接販売ルートが存在していたのか、あるいは18世紀初めには大量のチーズを購入するためには、ロンドンの方がより有利だった可能性も考えられる。

最後にハイランド夫人の店でたばこを購入している。最上のもので、長く切つてあるものを 3 cwt、価格が 1 lbで12dか12.5dの通常のを 3 cwt1/2購入している。

衣料品以外の購入商品は、建築用の材料から金物、陶器、文具、食料品や医薬品まで極めて幅広い。これらの商品がハッチによってサセックス農村部へ運ばれ、さらに小売されたとすれば、18世紀初頭の農村部における日常生活の一端を垣間見せるものである。多種多様な釘をはじめとする多くの建築用の金具は、木造家屋の建築・修繕のために専門的な建築業者や大工に販売されたか、あるいは普通の家計で家屋の修繕に用いられたかのいずれかであろう。同じ釘と言っても用途に応じて非常に多様であり、消費者の必要に応じた製品の品揃えがおこなわれており、同じものを単に大

---

12) ランカシャーの借地農ラザム家の家計簿によると、1724年に砂糖 2 lbを9dで購入しているから、1 lbあたり 3d~5dの価格は妥当なものと思われる。Weatherill (ed.) [1990], p. 6.

量に生産しただけのものではなく、需要に応じた生産がおこなわれていたことを示唆している。

オランダの店やポーツマスで購入を指示されているフォークや陶器の食器類は、都市的とされる「上品な消費文化」に見られる新しい消費財がかなり早い段階でイングランド南部の農村部では普及し始めていることを示している。ハッチはロンドンにおける「上品な」中流階層の消費動向を、農村部に媒介する機能を果たしていたと考えることができる。ビールやエール用の陶器の飲用容器としてのcannが各種登場するが、仕入れ指示書には金属製の容器は存在していない。都市に比べ農村部への陶器の普及は遅いとされているが（Weatherill [1988], p. 77）、それでもそれまで一般的であったピューター製のマグなどとならんで陶器製が一般化しつつあった可能性がある。また同時に、ティー・カップやコーヒー・カップの購入が見られ、暖かい飲みものが次第に重要な意味を持ちつつあったことが分かる。但し、単に省略しただけの可能性もあるが、これらのカップには本来はセットで登場するはずの受け皿（ソーサー）の記載がない。たしかに18世紀初頭のロンドンのコーヒーハウスを描いたイラストには受け皿は見られないので、この時期には受け皿がないことはむしろ一般的であったかもしれない（Clayton [2003], p. 9, 23）。とはいえ、18世紀初頭のイングランド南部農村においては、茶やコーヒーの飲用は始まってはいるが、コーヒーやとりわけ茶の飲用がまだ十分に社交空間としての機能を果たすまでには至っていないことをも示しているように思われる<sup>13)</sup>。

文具類についてみると、紙やペンなどが大量に購入されていることは、これらが小売販売されたとすれば、18世紀初頭のイングランド農村社会においても筆記を必要とする社会層が一定程度存在していたことを示している。教会のような宗教的、行政的機関ばかりでなく、ハッチ自身が残した営業目的の文書を含めて、かなりの需要が存在していたと考えられる。また、ブラシのなかに見られる織布工用ブラシやインディゴ、明礬、石鹼、糊なども繊維工業のなかで用いられる材料であり、こうした業務用需要の存在が想定できる。しかし、ハッチの購入量は絶対量としてはそれほど多くないので、大規模な業務用需要が背後に存在していたというよりも、副業的で自家需要的な生産であった可能性が高い。

一方で櫛は、地元でも購入されているが、ロンドンで購入された大量の櫛はその種類の多さから身だしなみに配慮する文化がそれなりに農村部にも浸透していたことを示している。また、カツラ用の櫛が存在することは農村部でもカツラがある程度使用されたことを示しているが、一般の櫛に比べてカツラ用は量的に少なく、カツラの使用はそれほど普及していなかったと考えられる。

身だしなみに気を遣う都市的な要素は、外来の珍しい食品の仕入れにも現れている。購入された

13) 茶などの温かい飲み物が社交空間を形成するのは、18世紀後半であると考えられる。Berg [2005], p. 230.  
ハッチの時代における普及は限定的なものであったと考えられる。

陶器にティー・カップやコーヒー・カップが含まれていることから、コーヒーやココアなど温かい飲み物の存在が知られていたことは明らかであるが、焙煎されたコーヒーやココア豆の存在は実際にこうした飲み物が消費されていたことを示すものでもある。但し、コーヒー豆の購入量は分からないし、ココアは1 lbほどなのでその量はそれほど多くなく、販売されたとしても消費はかなり限定的であったと思われる。とはいえ、同時に購入された砂糖はかなり大量であるので小売販売は間違いない。これらの砂糖は、甘味料として様々な形で利用されたとしても、かなりの量が温かい飲み物と組み合わせて用いられたので、温かい飲み物もそれなりの広がりを見せていたものと思われる。一方、茶がハッチの仕入れには全く登場していないことには、多少の違和感がある。

飲料以外にもレーズン、ナツメグ、プルーン、イチジクなどエキゾチックな果実が含まれている。その点では、18世紀イングランド南部農村もグローバルな商品ネットワークに組み込まれていることを如実に示している。しかし、ココアなどと同様にその購入量は決して多くないので、その消費もかなり限られた社会層に止まったものと思われる。

これらの果実同様に購入量は多くないものの、多種多様な医薬品がサセックス農村部に持ち込まれていたことが、ハッチの文書から見て取ることができる。パートレットの店で購入された商品には、医薬品としても調味料としても用いられるコリアンダーやクミン、ウコンなどが含まれている。水銀や硫黄や硫酸など鉱物や化学物質もその中にあるが、オースチンの店での購入品目と合せて、医薬品、薬剤として購入されていたものと思われる。ハッチの店は、食料品の販売と合せて地域の医薬品販売業者としての役割も果たしていたものと思われる。

このように、衣料品以外の購入商品は、個々の購入量はそれほど多くはないものの、その種類は非常に多様で日常生活に欠かせない商品を幅広くこの地域に販売していたことを示している。ハッチの販売していた商品は、サセックス農村部の人々が自立的に生活するために必要な商品を販売する中核的な商店であったと思われる。

## おわりに

さて、スティーブン・ハッチの残した文書は、自分の行動や意識を記録しようと作成された日記などとは異なって、資金の受入や支払、ロンドンでの仕入れなど日常的な生活と店舗の経営に関するものであった。それでも、この史料から彼が中流の社会層に属する人物で、小規模な農業経営をおこないつつ様々な商品を地域の農村へ提供していた店舗主であったことは推定できる。また、店舗での支出からは小売り業務ばかりではなく、手形や送金などかなりの金融的業務をおこなっており、こうした点も見逃せない。とはいえ、本稿では商品の購入の側面に絞って検討をおこなった。

店舗での支出から見た商品購入で見ると、まず近接する地域内での購買活動では穀物やバターなど生鮮食料品が購入され、これらは主として自家消費に当てられることが多い。一部には20マイ

ル程度の生活圏からタバコ用パイプや櫛などを販売目的で購入しているが、巡回してくる移動商人からの購入も見られる。販売目的のために地元で仕入れた商品においても糸やレースなどの服飾品が一定程度見いだせるが、ロンドンでの慎重な商品仕入れに比べると購入の仕方はかなり大雑把で、特定の供給者から購入する傾向が見られる。しかし、ライからの運送賃支払が頻繁に登場するのは、沿岸水運を利用した商品の供給が彼の営業で大きな意味を持っていたことを伺わせる。そしてその商品を仕入れる中心となっていたのはロンドンであった。

ハッチ家は少なくとも年1回程度、ロンドンへ仕入れ旅行に出かけていた。1722年には妻レベッカ・ハッチが出かけており、詳細な仕入れの指示書が残されることになった。この文書では、仕入れの指示内容もさることながら、ロンドンへかなりの量の卵と蜜蝋が搬出されたことが示されている。レベッカ・ハッチは新鮮さが重要な卵とともに蜜蝋を運んでおり、コストの高い陸路を利用しているので、蜜蝋も一定の価値を有する商品であったと思われる。ロンドンは単なる仕入れ地としてではなく、蜜蝋などサセックスから移出される商品の市場としても機能している。残念ながらそれ以外の商品、例えば羊毛やホップ、鉄などについてはハッチの史料からは知ることができない。しかし、ハッチはロンドンから商品をサセックス農村部へ持ち込むだけでなく、積み出す役割も果たしていたのである。

さて、ロンドンでの仕入れについて見ると、まず仕入れ商品の多様さには目を見張るものがある。仕入れた商品は服飾品から日用品雑貨に至るまで幅広いが、これら商品の大部分は専門的な商店で購入されており、ハッチ自身が多様な商品を仕入れて農村部へ広く浸透させたのとは対照的に、18世紀初頭のロンドン商人たちが販売する商品について高度に専門化していたことを示している。その一方で、ハッチの仕入れ先商店の立地はロンドン市東部およびテムズ川南岸のサザックであり、ウェストエンドと呼ばれた比較的高級な商品を扱う地域に比べて、相対的に安価な商品の取り扱い地域であったと考えられる。

仕入れ商品のなかでは繊維製品、ことに糸やレースなど服飾材料の占める割合が質量とも極めて大きい点が特徴的である。仕入れ商品全体のなかでも最も多くのページ数が指示書中で割かれ、指示が詳細なものは服飾品類である。その内容は糸、レースなど多様で、色や品質についても細かい指示がなされている。布地も仕入れられているが、絹などの高級な素材は見られない。一方、既製の衣料品はホーズ、胴着などに限定されている。18世紀の紳士物衣装では、上着としてのコートにブリーチ（半ズボン）と靴下（ホーズ）をはくことが一般的であり、婦人の衣装は上着としての長いガウンとその下にペチコートをはき胴着、胸着などをつけるのが普通であった。これら衣装の主要な部分は布地を別途購入し仕立屋で仕上げていたか、古着として購入していたものと考えられる。

ハッチの購入した商品のなかで、既製品はウェストサイズで標準化の容易な胴着などに限定さ



れ、仕立てる必要のある上着類は当然含まれていない。他方で服装のグレードアップは、流行に合わせて服飾品のレース、リボン、縁取りあるいはボタンを付け替えることによって可能であった。18世紀においてロンドンはやはり流行の中心地であり、その影響力も大きかった (Lemire [1997], p. 63)。ハッチがロンドンからもたらした服飾材料は、農村部でもこうした形で都市的で新奇の流行に合わせた衣裳へと転換を可能にさせるものであった。

この点で服飾材料の重要性は極めて大きく、ロンドンでの流行と顧客の要望とをつなげるために、ハッチは糸やレース、リボンなどの色や素材、色柄を詳細に検討して購入したのである。ことに多様な色彩や布地の柄に対する細かさは、流行への的確な対応をしようとする流通業者の重要性を示すものである。だが、仕入れ先商人の立地からは仕入れ品が最高の品質と価格であったとは考えにくいのであり、流行を取り入れつつも同時に農村地域にも受入可能な価格帯と品質を慎重に選択していたものと考えられる。

服飾材料以外でハッチが購入した商品からは、農村部の具体的な生活が垣間見られるものも多い。建築材料はその一つだが、購入した種類や数量の多い釘の仕入れは、大量生産が可能となる以前の18世紀初頭にすでに、多様な需要に応じて多彩な商品をかなり大量に提供できる生産システムが存在していたことを示すものである。

都市的な社会生活の農村への浸透は、読み書きの能力にも現れている。ハッチが提供した筆記用具の需要の存在は、農村部でも読み書きすることが一定程度必要になっていた社会状況を示している。また、都市的な生活文化が衣服以外の分野でも波及していることは、食器としての陶器やフォークの存在においても確認できるし、食料品においてもコーヒーやココアといった温かい飲み物が陶器の容器とともに利用されていたことは明らかである。こうした飲み物には砂糖がつきものであるが、かなり大量の砂糖がロンドンで仕入れられていることは、一定の範囲で温かい飲み物が普及していることを示している。さらにレーズンやイチジク、ピーナッツなどのエキゾチックな果実、医薬品としても調味料としても使われたと思われるコリアンダーやウコン、クミンなどの品々がハッチによってサセックス農村部へもたらされている。サセックス農村部もハッチによってグローバルな商品流通のネットワークのなかに組み込まれていたのである [Stobart & Bailey (2018), p.398]。

このように、サセックス農村部は18世紀の前半期にロンドンをはじめとする都市の「上品な」消費文化の影響を強く受け、これに対応する消費財需要の成長を示しており、ハッチはその浸透に一定の役割を果たしていた。とはいえ、食材についても砂糖を除くとその量は必ずしも多くはなく、ハッチ自身の自家消費を含め一部消費者の先駆的な需要の牽引役に止まったと思われる。その一方で、本稿では取り上げなかった資金移動を担う役割も見逃すことはできない。これらに関しては改めて検討し、今後、農村において店舗主が果たした社会的役割について、今回の分析を踏まえその

全体像を明らかにする必要がある。

## 参考文献

### 1 手稿史料

East Sussex Record Office

micro-film XA30/191, Record of Parish of Northiam

FRE528 Account His Shop, 1707-1720.

FRE529 An Account of Moneys Paid by Step Hutch on all occasion, 1712-21.

FRE530 R. Hatch Went out Aprill 23th, 1722, Come home, May 5th.

FRE 531 An Account of money taken in the shop, 1720-32.

FRE 532 An Account of money taken in the shop, 1732-44.

### 2 同時代文献

Campbell, R. [1969 (original:1748)], *The London Tradesman*. Newton Abbot, David & Charles.

Vaisy, David (ed.) [1994], *The Diary of Thomas Turner 1754-1765*, East Hoathly, CRT Publishing.

Weatherill, L. (ed.) [1990], *The Account Book of Richard Latham 1724-67*. Oxford, Oxford UP.

White, P. L. (ed.) [1956] *The Beekman Mercantile Papers* Vol. II. The New York Historical Society, New York.

### 3 二次文献

Ashelford, J. [1996], *The Art of Dress, Clothes and Society 1500-1914*. London, National Trust.

Berg, M. [2005], *Luxury and Pleasure in Eighteenth-Century Britain*. Oxford, Oxford UP.

Breward, C. [1995], *The Culture of Fashion. Manchester*. Manchester UP.

Buck, A. [1979], *Dress in Eighteenth-Century England*. London, Batsford.

Clayton, [2003], *London's Coffee House*. London, Historical Publications.

Earnshaw, P. [1994], *The Identification of Lace*. Princes Risborough, Shire Publications.

Langford, P. [1989], *A Polite and Commercial People, England 1727-1783*. Oxford, Clarendon Press.

Lemire, B. [1991], *Fashion's Favourite*. Oxford, Oxford UP.

Lemire, B. [1997], *Dress, Culture and Commerce*. London, Macmillan.

Leslie, K. & Short, B. (eds.) [1999], *A Historical Atlas of Sussex, An Atlas of the History of the Counties of East and West Sussex*. Chichester, Phillimore & Co.

Kerridge, E. [1985], *Textile Manufactures in Early Modern England*, Manchester, Manchester UP.

Peren, R. [1989], "Markets and marketing" in G. E. Mingey (ed.), *The Agrarian History of England and Wales* Vol.6. Cambridge, Cambridge UP.

Scola, R. [1992], *Feeding the Victorian City*. Manchester, Manchester UP.

Stobart, J. & Bailey, L. [2018], "Retail revolution and the village shop c. 1660-1860", *Economic History Review*. 72-2.

Turnbull, G. L. [1977], "Provincial road carrying in England in the eighteenth century", *The Journal of Transport History*. 4-1.

Weatherill, L. [1988], *Consumer Behaviour and Material Culture in Britain 1660-1760*. London, Routledge.

Weatherill, L. [1991], "Consumer behaviour, textile and dress in the late seventeenth and early eighteenth centuries" *Textile History*, 22-2.

Willan, T. S. [1967], *The English Coasting Trade 1600-1750*. New York, Kelly.

Willan, T. S. [1970], *An Eighteenth-Century Shopkeeper*. Manchester, Manchester UP.

Willett, C. & Cunnington, P. [1992], *The History of Underclothes*, New York, Dover Publications.

Wrightson, K. & Levine, D. [1979], *Poverty and Piety in an English Village*. New York, Academic Press.

指 昭博 [2019] 『キリスト教と死』 中公新書。

中野忠、道重一郎、唐澤達之編[2012] 『18世紀イギリスの都市空間を探る』 刀水書房。

道重一郎 [2008] 「18世紀ロンドンの小売商と消費社会—服飾小物商millinerの活動を中心に—」  
『経営史学』 43-1。

道重一郎 [2013] 「ロンドンの仕立商（上）—セイヤー家文書を中心に—」 『経済論集』（東洋大学） 39-1。

道重一郎 [2014] 「ロンドンの仕立商（下）—セイヤー家文書を中心に—」 『経済論集』（東洋大学） 39-2。

道重一郎 [2016] 「18世紀イギリス社会における消費批判とジェンダー」 道重一郎編『英国を知る』 同学社。

道重一郎 [2019 (a)] 「18世紀イングランド南部農村地域の店舗主—トーマス・ターナーの営業活動を中心に—（上）」 『経済論集』（東洋大学） 44-2。

道重一郎 [2019 (b)] 「18世紀イングランド南部農村地域の店舗主—トーマス・ターナーの営業活動を中心に—（下）」 『経済論集』（東洋大学） 45-1。

#### 4 インターネット

*House of Commons Journal*, Vol. 10 in British History Online (<http://www.british-history.ac.uk/commons-jrnl/vol10/>), pp480-2.

"Dictionary of Traded Goods and Commodities 1550-1820", British History Online (<http://www.british-history.ac.uk>).